



わかえだ

日本福音ルーテル健軍教会 若枝奨学会ニュース 2022.3.1 vol. 9

ごあいさつ

若枝奨学会運営委員長 白鳥 哲

全国の「若枝」の支援者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。
2021年度の若枝奨学会を運営することができたのは神さまのお導きと、健軍教会の人たちをはじめ関係施設の職員、全国の多くの方々のご支援のおかげです。心から感謝申し上げます。

2021年度の若枝奨学会は、施設を卒園されて学生生活を送っておられる3名と新しく大学等に進学した学生5名を加えた8名及び被災学生・生徒1名の計9名の方に奨学金を支給しました。

秋には奨学金を支給している7名方からお便りをいただきました。大学3年生のAさんは、「サポーターの方からバースデーカードをいただいて誕生日を祝っていただいて、とてもうれしかった。」、大学2年生のBさんは、「司書の資格に加えて日本語教員の資格を取るために頑張っている。」、専門学校2年生のCさんは、「トリマーではなく動物看護学科へ進みました。失敗の連続ですが、友人や先生などに相談したりアドバイスをもらいながら頑張っています。卒業後は動物病院か老犬ホームに就職したいと考えています。」、大学1年生のD君は、「学べることに嬉しさを感じています。全ての科目にバランスよく集中することができず、評価に差があるので平均点を上げるように予習、復習をしっかりとしたい。」、大学1年のEさんは、「入学当初から、かな

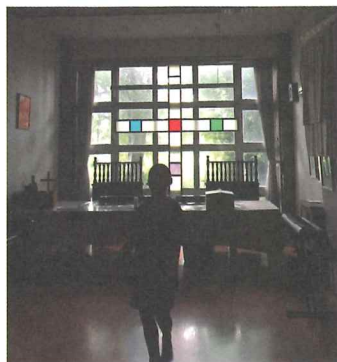
りの友人に恵まれ、全学科の全クラスで顔見知りができるほどになった。英語のテストでつまづいたが、フットサルサークルに入り、先輩とも仲良くなり、悩みや疑問を共有することができています。」、大学1年生のFさんは、「一人暮らしを始めてすぐの頃は自炊をするのが面倒で、食事を抜いてしまい、倒れてしまうこともありました。最近では最低でも2食は食べるようにして健康になりました。経済面で少し節約できるように頑張りたい。オンライン授業で友達もあまりできずに、勉強も怠けている部分があるので、何のために進学したのかをもう一度考えて、勉強に励みたい。」といったお便りで、コロナ禍の中で、それぞれ頑張っている様子を知ることができました。住所がわからずに連絡が取れない奨学生がいるのが気になりますが、それぞれの総学生は皆様からの支援に対してとても感謝しており、奨学生からの、このような近況報告は、「若枝奨学会」を支えていただいている皆様にとっても大きな励みになるものと思います。

ご支援くださる方たち自身が、いつまでも続く新型コロナウイルス感染症の影響を受けて苦しい中で過ごされているにも関わらず、ご支援をいただいたことは大きな感謝です。心から御礼申し上げます。

次年度、大学等に進学する学生が増える予定ですので、2022年度も皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

皆さまの上に神さまの祝福とお恵みが豊かにありますよう、お祈りしています。

児童養護施設 広安愛児園の礼拝が行われるパウラスホームの十字架



おたより



奨学生からのおたより

GHさん(大学1年生)

私は高校時代に大学へ進学したいと思っていたのですが、学費や生活費など費用面での心配が大きく、仮に入学できたとしても大学生活の継続は困難だと考え、半ば大学進学を諦めていました。しかし、若枝奨学金などの奨学制度のおかげで大学に進学する道筋が見えて、実際に進学することができたので、大変感謝しています。

もっと専門的な分野について学びたいと思っても、前述のような理由で進学を諦めざるを得ない環境から抜け出せたことを、とても嬉しく感じています。このような形で得ることができたチャンスを活かして、今後も頑張っていきたいです。



秋、こども祝福式にあわせて、奨学生たちの後輩にあたる各施設の小学生以下の子どもたちへ、教会女性会より、カードとクッキーがプレゼントされました。

未来を創る力を持った若者たち

思い煩いは、何もかも神にお任せ下さい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。(新約聖書ペテロの手紙一5:7)

運営委員・こどもL.E.C.センター施設長 松本祐一郎

親や家族からの虐待や支配は、18歳以下のいわゆる「子ども」だけが受けるものではありません。18歳を過ぎても被害を受け続けている人は、私たちが思う以上に、たくさんいます。運よく、児童相談所に保護され、社会的養護と呼ばれる施設や里親・ファミリーホームで生活をして、精神的虐待、教育虐待、性的虐待、ネグレクトなどの虐待行為を親や家族から受け続けてきた心の傷は完治することは難しい状況にあります。

18歳になると、社会的養護の枠組みからは原則、卒業しなければなりません。大学や専門学校へ進学をすると学費の支払い、奨学金の申請、学校の保証人などの理由から、親を頼らざるを得ない状況となり、在学している間は、親から逃れることがとても難しくなることもあります。また、すべてを自分が背負わなければならない状況にもなります。

新型コロナウイルスで「ステイホーム」という言葉を耳にしました。虐待を受けている子ども達にとってはとても残酷な言葉です。学校やアルバイト先、友人との繋がりが断たれ、心身ともにボロボロになります。また、親元から逃れ、進学先等で頑張っている社会的養護出身の若者はアルバイト先を失い、将来の希望が断たれ、貧困の連鎖からようやく抜け出せるチャンスを失う状況が多くなってしまいました。

2022年4月から「18歳」が成人となり、自己責任」が求められます。自分で責任を取ると言っても、その前提として、自分自身のことを愛し、自分を大切に感じる感覚を育て、自分の身を自分で守ることが求められます。その上で、自分の生きていく道や将来を自分で選択することが必要となるのではないのでしょうか。

社会的養護から巣立つときに、若者は若者なりの自分の夢を描きます。様々な困難が待ち受けているとは思いますが、神様を想い、多くの人からの助けを得ながら、大切にされながらその夢が叶う日が来ることを私たちは願っています。

健軍教会に連なる関連施設を巣立つ若者達は「安心安全」な生活の基盤の1つになる若枝奨学会の奨学金を得ながら日々奮闘をしています。若者たちは未来を創る大きな力を持っています。一人ひとりの若者たちの人生が豊かにそして幸大きくなるためには皆様方のご協力が必要です。本当に険しい人生を歩んできた若者たちです。若者たちが、自分の人生をしっかり歩んでいくことができるように神様と共に支えていただけることを願っています。ご支援の程、よろしくお願い致します。



児童心理治療施設こどもL.E.C.センターのシンボルは魚です。魚はキリスト教におけるイエス・キリストを示すシンボルでもあります。ギリシア語で「イエス・キリスト 神の子 救い主」と書いた頭文字を並べると魚となります。

報告と感謝

奨学生には教会員のサポーターがおり、誕生日とクリスマスに手紙を送ります。「おめでとう」という言葉が届くことを願って、1年にわずか2回のことであるかもしれませんが、それは他の多くの「おめでとう」とも異なるものです。努力の結果に対するものではなく、あなたが存在し、生きていてくれる。ただそのことが嬉しいと伝えることだからです。それは受け取る人の生きる力となり、その人が他の誰かを大切に思う始まりになることでしょう。そのことにつながるあなたのご支援に感謝します。(安井)

2021年 会計報告

2021/1/1-12/31

収 入		支 出		備 考
繰越金	6,730,141 円	奨学金支給	2,100,000 円	※ 1
賛助会費(121 口)	1,385,182 円	誕生日プレゼント	40,000 円	※ 2
バザー収益から (バザー未開催)	0 円	事務費	52,509 円	ニュースレター、 切手、募金はがき
教会から	100,000 円			
		手数料	16,007 円	振込手数料
雑収入(利息)	15 円	預金残高(含現金)	6,006,822 円	
合 計	8,215,338 円	合 計	8,215,338 円	

※ 1 月額 2 万円 × 9 名。奨学金支給対象人数は 1~3 月と 4~12 月で異なるため、支給総額は単純計算の数と異なります。 ※ 2 クオカード 5,000 円 × 8 名

2021-2022年度 運営委員

白鳥 哲(運営委員長・健軍教会)、三嶋充裕・橋本智之(広安愛児園)、
松本祐一郎・作田郁美・中村圭吾(こどもL.E.C.センター)、
森田智博(熊本ライトハウス)、石嶺万起子・甲斐夕貴・野口光太郎・
安井宣生(健軍教会)

健軍教会若枝奨学会

862-0908 熊本県熊本市東区新生 2-1-3

日本福音ルーテル健軍教会

☎ 096-368-2917 ✉ kengun@jelc.or.jp

郵便振替 01770-2-123757

銀行振込 ゆうちょ銀行 179 店(当座) 0123757